伊勢市廃棄物減量等推進審議会（令和６年度第２回）審議結果等

○ 日時：令和６年 10 月 17 日（木）14 時から

○ 場所：伊勢市役所本庁舎東館 4-2 会議室

○ 委員　　萩原　浩司（学識経験者：皇學館大学）
上野　早苗（市民：公募）
安井　正和（事業者等：株式会社ぎゅーとら）
北岡　孝裕（地域住民組織：伊勢市総連合自治会）
竜田　和代（地域住民組織：伊勢市女性団体連絡協議会）
坂村　春美（地域住民組織：伊勢市食生活改善推進協議会）
奥田　哲也(関係行政機関:三重県南勢志摩地域活性化局環境室）
坂本　進　（関係行政機関：伊勢広域環境組合）
【欠席】
平島　円　（学識経験者：三重大学）
酒徳　慎吾（事業者等：伊勢商工会議所）
北前　尚紀（再生資源事業者：株式会社　幸伸）
事務局
大桑　和秀（環境生活部長）、林　歩（ごみ減量課長）、
西岡　誠司（ごみ減量課主幹）、出口　昌司（ごみ減量推進係主査）、
佐波　聖樹（ごみ減量推進係主事）

○ 審議結果等
事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。

＜報告＞　●報告第１号　令和６年度　ごみ排出状況（速報値）について
【資料 1-1、1-2】

（委員１）	家庭ごみの量が少なくなっているのは、人口減なのか買い控えが原因なのか、物価高騰により材料費、光熱費が上がったことから、外食が増えているからなのか？事業者における資源物はどうなっているのか？
（事務局１）	外食の機会が増えているのも家庭ごみの減少に影響していると思われる。資源化できるものは広域環境組合にて再資源化工場へ搬入されている分もある。

（委員２）	市町が収集している資源物は広域環境組合に搬入され、売払いし、再資源化している。事業所が集めている古紙類、ペットボトル、缶なども市内の古紙問屋などの業者に市、広域環境組合と同じようなルートで再資源化していると思われる。 燃えるごみが減少している理由は様々な要因があると思われる。買い控えや自宅での調理の減少、外食の増加、プラスチック製品の分別回収の開始、事業者が実施する資源化への取り組み、人口減などが考えられる。
（委員３）	外食産業に関して、食べ放題店などで持ち帰りをしていきましょうといった店舗が増えている。様々な食品を持ち帰って消費しようといった機運が高まっている。伊勢市において、持ち帰りを推奨している店舗を把握しているか教えてほしい。
（事務局１）	最近の状況は把握していない。食品ロス削減の一環として食べきり応援店制度を実施し、47 店舗登録があり、その登録店舗では食品の持ち帰りに取り組んでいる業者はある。
（委員３）	食べきり応援店制度があるのであれば、登録店舗が増えるよう取り組んでいただきたい。
（委員１）	伊勢市食生活改善推進協議会においては、食品の持ち帰り対応は衛生上不安があるのでしない方がよいと考えている。食べきれないのであれば小盛などで対応してもらうよう、本人が食べきれる量を認識してもらうよう助言をしている。
（事務局１）	食べきり応援店制度の中に食べきりの取り組みもあるが、小盛メニューの対応や 30・10 運動の推進をしている店舗に登録いただいている。今いただいた意見を鑑みながら、当制度も進めていきたい。
（委員４）	食べきり応援店制度の登録店舗数は徐々に増えてきているのか？
（事務局１）	店舗数の伸びに関して、こちらからの働きかけによる店舗数の増加は停滞している。今後、飲食店に関して、食品ロス、ごみの減量という点から啓発や協力を求めていくよう働きかけをしていく。
（委員４）	伊勢市は観光地であり、事業者の協力により取り組みも変わってくると思う。
（委員５）	食べきり応援店制度に関して、小、並、大といったように食べきれる量を選べるよう、はじめに注文できるような取組を飲食店にすすめていってほしい。

＜審議＞　●議案第１号　令和６年度　主な取組み施策の進捗について
【資料 2-1】

（委員３）	草・剪定枝の資源化について、自治会活動の中ででた草等の回収依頼があった自治会がどれくらいか把握しているか？
（事務局２）	昨年度は 60 程度の自治会から草等の回収依頼があった。今年度、草・剪定枝の再資源化を実験的に行っており、全自治会へ草等の回収について通知したところであるので、今年度、回収依頼があった自治会数や回収量を把握していきたい。
（委員３）	自治会へ通知を出したことにより、これまで燃えるごみとして出していた自治会の草などが資源化になるよう変わってくる。個人についてはまだこれからか。
（事務局１）	個人の方に向けては、今後徐々に進めていくよう検討したい。
（委員５）	草・剪定枝の資源化について。コナラが葉の中にマイクロプラスチックを吸収しているという研究がある。すべての植物が吸収しているか、どの程度の影響があるかはまだわからないが、堆肥化し、土壌に使用することで、マイクロプラスチックの濃縮汚染の可能性もある。新しい研究結果などを踏まえて堆肥化するのか、焼却処分するのかを配慮してほしい。
（事務局１）	最新の研究結果などの情報を仕入れ、再資源化事業者と情報交換しつつ進めていく
（委員４）	ごみ減量フェスティバルについて、８月３日開催であれば、ペットボトルを使った工作やミニ・キエーロの取り組みなどは小学生の夏休みの自由研究にも活用できるといった PR もできると思われるので、教育委員会と連携し、各小学校にイベント周知すれば参加者が増えるのでないか。今後、参加者を増やすために、教育委員会と連携することもいいのではないか。
（委員１）	ごみ減量フェスティバルの開催日は他のイベントも開催されていた。同日に複数イベントを開催するのであれば、この場所ではこういうイベントが開催されているといった、市民にそれぞれの足を運んでもらえるような案内をしてはどうか。
（事務局１）	ごみ減量フェスティバルの日を設定した後、他部局でイベントがあることがわかってきた。日程等に関してこれからの課題として検討していく。
（委員６）	ごみ減量フェスティバルに参加したが、講演もよく、大人だけで

	なく子どもでもわかりやすかった。たくさんの市民の方に来てもらえるよう取り組みを進めてもらえればよくなると思う。
（事務局１）	今回はごみ減量課の手作りで実施したが、今後は、色々な組織との連携も検討していくとともに、色々と工夫しヴァージョンアップしていきたい。
（委員７）	ごみ減量フェスティバルにおいて、工作するものの参加定員数を増やすことができれば、イベント参加者が増えたのではないか。工作するものは、実施時間と対応する人数によって、何人の方が参加できるかが変わってくる。きちんと参加者一人の工作にかかる時間や人員を検討し、準備する必要がある。
（事務局１）	マンパワーにも限りがあるので、やり方など色々と工夫するよう考えていきたい。
（委員１）	これまでイベントは三重県営サンアリーナといった市内の広い会場で実施されることが多い中で、今回、ごみ減量フェスティバルは小俣町で開催された。市内のいろんな場所でイベントを開催するのはよいと思う。市内においても、住んでいる場所から遠い場所が会場では行きづらいこともある。今後、会場を変えるのかこのままでするかは検討課題であると思うが、今回、よくイベントをされる会場とは違う場所で実施したことは評価できると思う。 ごみ分別アプリは使っているが、祝日のごみ出しも確認が容易にでき、助かっている。色んな人に登録してもらえるとよいと思う。

●議案第２号　令和７年度　主な施策（予定）について
【資料３-1】

（委員１）	学校の教師のアンケートにおいて学校では分別回収を何故していないのかといったものがあった。学校から出るごみはどのように回収しているのか？
（事務局３）	燃えるごみについては、学校、保育所、幼稚園は公共が回収している。学校も事業所であることから、排出された廃棄物により産業廃棄物、一般廃棄物の処理をしており、ごみ減量課としては資源物といった取扱いはしていない。基本的には学校の方で管理・運営いただいている。
（委員１）	学校のアンケートでごみの分別をしていないのかとの回答から、回答のあった学校では分別をきちんとしていないと思われる。学校においてもごみの分別をするよう依頼するなど働きかけをしてほしい。

（事務局３）	教育委員会へ一般廃棄物と産業廃棄物の区分に関する説明含めて、分別に関して協議に行っている。分別がきちんとできないのであれば、教育委員会へ協議をし、学校へ直接出向いての説明含めて検討する。
（委員１）	公的機関であるので、きちんと指導していただきたい。
（委員７）	幼稚園などの出前授業において、分別クイズをすると園児もきちんとごみの分別ができる。学校にてしていないとはあまり考えられない。アンケート回答者が知らないだけではないか。
（事務局３）	学校でのごみの分別について、改めてごみ減量課から教育委員会へごみの分別について話をしていく。そのほか、校長会や全学校への説明や業務員にごみ分別を徹底してもらうなどの方法を検討しながら、進めていきたい。
（委員５）	学校では牛乳パックの資源化をしており、児童がパックを洗っている。学年に牛乳アレルギーの児童がいれば、アレルギー対策のために洗うことをせず、燃えるごみに回すことや、工作の際にでる段ボールなどは不適物が付いている場合があり、資源物に回せないことがあると聞いた。事情により資源物にごみの分別をしないこともあるのではないか。
（事務局１）	学校により事情があると思われる。牛乳パックの資源化については、コロナ禍のときは感染防止を優先するとの学校の意向もあった。学校長それぞれの考えもあると思われる。
（委員１）	学校においても公的機関であるので、ごみの分別がきちんとなされていないのであれば、分別するようしていただきたい。
（委員５）	学校の教室に行き、ごみ箱の数を確認すればわかると思う。一度視察等をしていただければと思う。
（委員２）	学校での分別について、現地に出向いて児童や教師に説明するのもよいのではないか。広域環境組合の職員も度会町へ行き、ごみの行方などの話をしている。小学校４年生の児童は清掃工場へ見学にきて、ごみの処理に関して学んでいる。その際には分別に関しても話をしている。児童へ話をしたことは親にも伝わり、啓発には効果的であると思われるので、児童や教師への研修等の啓発を進めてはどうかと思う。
（事務局３）	環境会議にて保育所等へは出前授業を実施している。小学校へも出前授業としてごみ減量課で実施している。教師への啓発については、現在実施していないので、教育委員会と協議しながら、ごみ減量課で検討していく。
（委員３）	今後、伊勢市ではお木曳行事が始まる。事業者の方、行事に参加される方、観光客の方へごみ減量に協力していただく必要がでて

	くると思われる。今後、事業系ごみの減量や食品ロス削減などに関する啓発を頑張って取り組んでいただくようお願いしたい。
（委員４）	ごみ減量フェスティバルについて、夏は暑すぎて子どもは外に遊びに行けないので、暑い時期に室内行事をしてもらえるのは、小さい子どもがいる家庭にはありがたい。託児所や授乳室などがあればイベントに参加しやすいのではないかと思う。
（委員７）	町内の夏祭りを公民館の室内で実施したら、涼しいためか参加者が多く盛況であった。暑い時期に室内で空調が整備された場所でのイベントは子どもの行き場作りにもなり、よいと思う。そういったことも考えて、イベントを実施してもらえればと思う。
（事務局１）	今後、イベントを実施する際に参考にする。
（委員８）	ごみ減量フェスティバルについて、開催時期は未定か？
（事務局１）	現時点では未定である。子どもの夏休みの時期であることや夏の暑さなど色々な要因を踏まえて検討する。
（委員５）	資料 3-1 について、「幼稚園・保育園での環境出前講座の実施」とあるが、こども園もあるので、「こども園」もしくは「など」と記載していただければと思う。
（事務局２）	今後修正する。
（委員４）	事業系一般廃棄物の減量啓発について、ごみ減量の輪プロジェクト（仮称）を進めるとあるが、その際には、協力店舗とすぐわかるように小旗が掲示されているなどすれば、観光客の方などがお店を選ぶ際のアピールにもなるのではないか。また、小旗には名称だけでなく、観光客の方などにわかりやすいよう SDGｓのアイコンを使用し、目の引くようなデザインにしてみてはどうか。事業者の方がプロジェクトへ協力したくなるようなプロジェクトになればと思うので、ご検討よろしくお願いします。
（委員２）	事業系一般廃棄物の減量啓発に関して、廃棄物を処理する側からすると、搬入される事業系廃棄物の中に産業廃棄物が混入されている。排出事業者自らが一般廃棄物と産業廃棄物の区分がしっかりわかっていないこともあると思うので、事業者が廃棄物の区分をしっかり理解するような、また、事業者にも排出者責任があるということが伝わるような手引きの作成をお願いしたい。
（委員１）	東京では自動販売機はあるが、ペットボトルを捨てる回収容器がない。市内ではきちんと回収用容器も設置されており、市民の利便性が確保されていると感じる。
（委員２）	市の条例で容器入りの飲食料を販売する事業者は容器等を回収するための回収容器を設置しなければならないといったものがある。

（委員６）　㈱ぎゅーとらではペットボトルなどを回収しているが、2023年には860万本回収している。

●その他

（委員６）　㈱ぎゅーとらでは、これまで販売できない未利用食品については、リサイクル施設のない地域では焼却処分していたが、今後はそのような地域でも堆肥化を進め、できた堆肥を契約農家で使用してもらい、できた食品をぎゅーとらで販売するといった食品資源が循環する取組をはじめる。